

Case13: 脂質代謝異常症の治療にフェノフィブラート系薬剤を使用した猫の1例

【Profile】

2011年 動物臨床医学会年次大会 発表症例

- ・動物種:猫
- ・品種:雑種
- ・性別:雌(避妊済み)
- ・年齢:3歳
- ・体重:4.0kg
- ・B.C.S=3.5/5

■病歴:

低脂肪食給餌7ヵ月目に元気消失、食欲不振を主訴に来院。院内検査にて急性膵炎と診断し、治療するも高TG血症が持続したためLipoTESTにて詳細を検査した。

【検査】

■院内検査

○血液検査

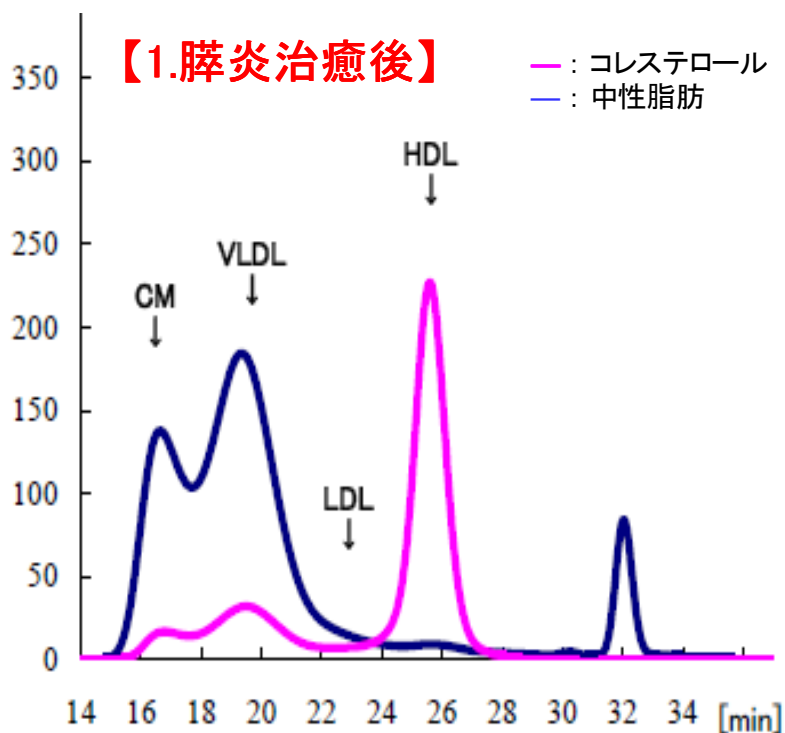
健康診断で以下の異常が確認された。

- ・リパーゼの異常高値
(Lip=2835 IU/l)
- ・中性脂肪の異常高値
(TG>375 mg/dl)

■LipoTEST検査所見(1回目)

分類:パターン2・インスリン抵抗性型

- CM-Cho: 8.56 mg/dl
- VLDL-Cho: 27.68 mg/dl
- TG: 711.27 mg/dl
- CM-TG: 208.41 mg/dl
- VLDL-TG: 440.22 mg/dl
- LDL-TG: 37.84 mg/dl
- HDL-TG: 24.80 mg/dl の異常高値。

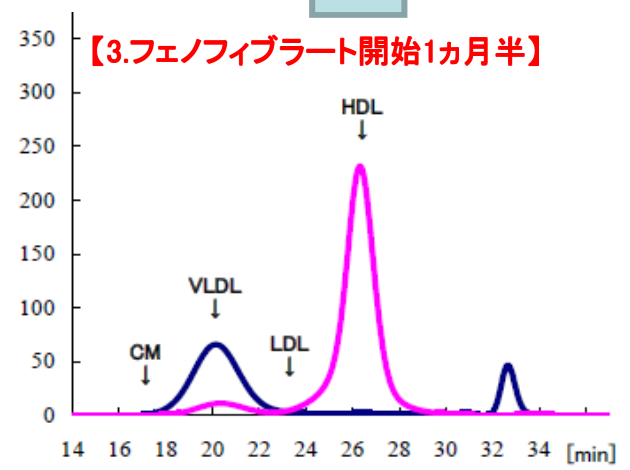
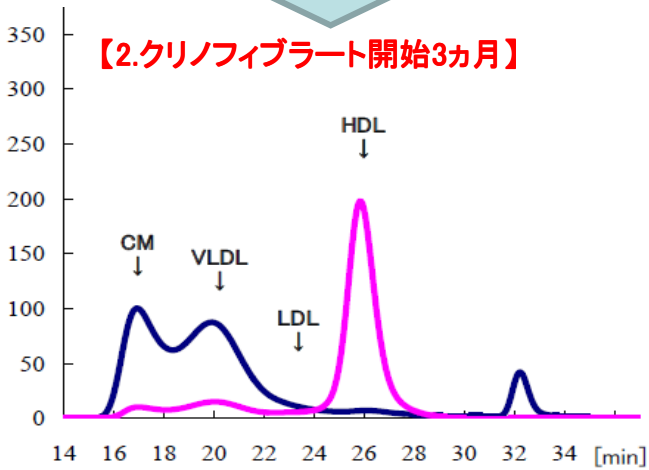
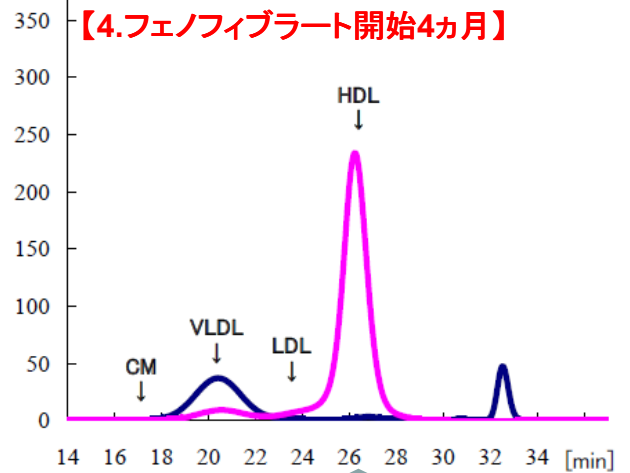
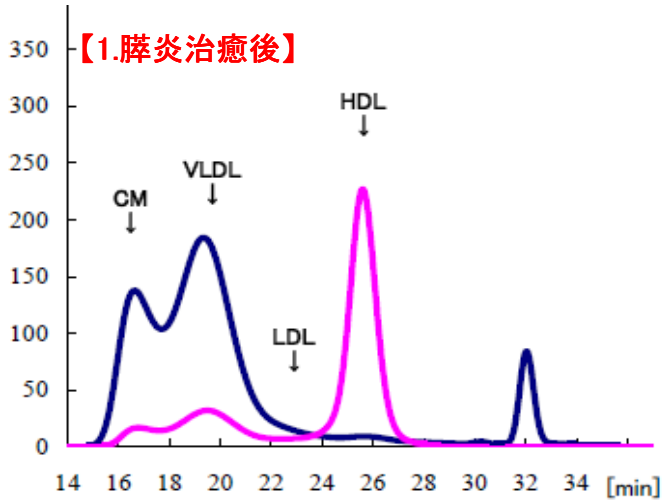


【治療計画】

- ・膵炎治癒後の脂質代謝異常症治療のため当初エラスターゼ:1800EL.U.,B.I.D.で4週間投与。反応が認められないため、次いでクリノフィブラート:6.4 mg/kg, B.I.D. (CoQ10:5mg S.I.D. 併用)で投与を開始し、用量を漸増しながら約1年投与を継続したが、薬剤への安定した反応が認められなかった。
- ・薬剤をフェノフィブラートに変更し、3mg/kg,S.I.D. (CoQ10:5mg S.I.D. 併用)で投与を開始し、1ヵ月半後、4ヵ月後に治療効果を確認するためLipoTESTによる詳細検査を行った。

⇒ 裏面に続く

【LipoTEST 波形データの変化】



【解析結果に基づく治療への評価】

- ・猫の高TG血症の治療において、クリノフィブラート系薬剤で効果が認められなかった症例に、フェノフィブラート系薬剤を投与したところ、速やかな反応がみられ、有効であった。
- ・その結果、前回異常値となったLipoTEST項目は全て正常化しており、現在フェノフィブラート2mg/kg S.I.D.にて用量を抑えての投与を継続している。
- ・治療開始後約2年が経過したが、理想体重へ減量、維持できており、臨床症状の発現もなく、血液生化学検査において肝酵素の上昇等、副作用は認められていない。

症例提供: 隼人どうぶつ病院 添田健作先生 (大分県)

◆LipoTESTに関するお問合せ先 スペクトラム ラボ ジャパン 株式会社

* 検体送付キットの請求は、下記記入のうえ、FAX (03-5731-3631)にてご返送下さい。

病院名		氏名	
住所		TEL	

詳しい情報に関しては、LipoTEST Webをご覧ください。URL: <http://www.lipotest.jp/>